

令和5年度 東海村人・農地プラン検討会 摘録

1	開催日時	令和6年3月18日(月) 18時00分から19時15分まで
2	場所	東海村役場 205会議室
3	出席者	<p><東海村人・農地プラン検討会> 大内 静夫, 飛田 浩光, 鴨志田 妙子, 佐藤 宗一, 大内 晴夫 照沼 哲也, 大輪 和幸, 照沼 勝将, 萩谷 英之, 石下 香里, 関 誠一, 菊池 敬 12名</p> <p><東海村農業政策課> 塙紀昭, 坪正樹, 大内剛史, 照沼光讓, 根本かほり 5名</p>
4	欠席者	なし
5	公開又は 非公開の別	公開
6	非公開の理由	
7	議題	<p>(1)会長・副会長の選任について (2)報告 ①地域計画策定に向けた取組みについて(人・農地プランから地域計画へ) (3)議事 ①東海村人・農地プランの変更(中心経営体の位置づけ)について (4)その他</p>
8	配布資料	別添のとおり
9	摘録	<p>(1) 会長・副会長の選任について 東海村人・農地プラン検討会設置要綱第4条の規定により選出。 会 長：菊池 敬 委員 副会長：大内 静夫 委員</p> <p>(2)報告 ①地域計画策定に向けた取組みについて(人・農地プランから地域計画へ) ・資料1-1, 1-2, 1-3, 1-4, 1-5に基づき説明。 (◆：委員の意見 ◇：農業政策課) 意見なし。</p> <p>(3)議事 ①東海村人・農地プランの変更(中心経営体の位置づけ)について ・資料2-1, 2-2に基づき東海村人・農地プランにおける中心経営体の位置づけについて説明。</p>

(◆：委員の意見 ◇：農業政策課)

◆もともと「就農」，「認定」などという判断は決まっている中で，この検討会ではどのような審議をするのか。

◇中心経営体の中に今回新たな方々を位置づけたいと思うので，そこに関しての意見をいただければと思う。また，文章化されている計画についてもお目通しいただき，今後検討していくべき点などがあれば意見をいただきたい。

◆今回追加の方々は，認定農業者の審査会をし，村長に上申をして認められた方だということで，今回の位置づけの方々が認定に値しない状況であるようなことがない限り中心経営体への位置づけをするようだと思う。

◆事業計画を立てた上で村長から認定されているので，これから東海村を担ってもらう立場の方々として位置づけをして良いと思う。

⇒東海村人・農地プランの変更については異議なしの意見多数により承認された。

(4) その他

◆東海村の人・農地プランは東海村で1つのプランだったと思うが，地域計画はどうか。地域計画の協議の場を5つのエリアで開催しているとのことだが，5つの計画になるのか，人・農地プランと同様に1つの計画になるのか。

◇地域計画については5つのエリアで協議の場を設けているが，計画自体は人・農地プランと同様，1つの計画を作ることによって進めている。計画書の中に座談会のエリアごとに特化した課題や地域農業にかかる必要な措置などを書き込むことでエリアの特色が分かるようにする予定である。

◆今年の夏も去年と同じような暑さだったら米や甘藷，他の作物も色々な面で大変になってしまうと思うが，対策はあるのか。

◆東海村地域農業再生協議会の総会でも話をさせていただいたが，これまで米についての研究として，国も県も冷害についての研究はされてきたが，高温対策についての研究は現在慌ててやっているような状況である。とはいえ，農作物は毎年作らないといけな。まず，米は今まで通りの基本技術を怠らずに，例えば土づくりについては深く耕したり，「ケイカル」や「ようりん」などの肥料を使っていただきたいと思う。米について，高温耐性品種である国が育成した「にじのきらめき」という新品種が出た。県として増産しているが，需要に追い付いていない現状であり，今後種の増産をしていきたいと思う。また，夏場ぬかるむのを避けるため，水を入れる期間を短くしてしまう方も多。稲は穂が出て

から成熟するまでの1ヶ月間、水を欲しているのに、しっかりその時期に水を入れていただきたい。気温が27度くらいの時には、水の方が温度は低い。

さつまいもについて、去年は6月ごろの高温の際にマルチを張るべきかどうかで意見が分かれたが、基本的には6月中旬くらいの暑さであれば、さつまいもは高温を好む植物なので、マルチはして植えてしてもらって問題ないを考える。マルチをしないと水分が蒸発してしまう。

◆果樹は水がふれるので問題はないが、田んぼは電気代が高いとのことで水を流す期間を短くしてしまうこともあると思う。できれば8月は、夜間水を流して夜冷やしてあげないと、代謝の方に水分がもっていかれてしまう。果樹も米も夜温を下げないとおいしくならない。さつまいもは去年の暑さで、雨も少なかったため。根から水分を吸い上げる時に、自分を冷やすための水分が葉から出し切れない。そのため、葉っぱがしおれてしまう。最終的に芋自体から水分が蒸発していつてしまう。その結果、繊維質の残ったシロタができてしまう。水をふるか温度を上げないようにしないとならない。ぶどうも同じだが、根っこじゃなくて実がしぼんでしまう。さつまいもは高温耐性、マルチの問題も大きい。

◆さつまいもは6月20日頃までに植えきらないといけないと言われている。去年は大豆も大きな被害があった。高温と干ばつが一緒くたに問題としてあげられているが、大豆は気温27度くらいまでは耐えられる。大豆が実らなかった原因は干ばつであるとされている。田んぼで大豆作っている場合は、昔の栽培方法に戻し、60cmくらいの畝間で1回中耕培土し、山を作り、雨が降らない時には畝間に水を入れるという方法を取ると大豆の干ばつ被害は軽減される。

◆去年はさといもの栽培に失敗した。育たなくて。水は大事だと思った。

◆水田もそうだが、畑であっても水はあったほうが良いか。

◆今後も去年のような暑さが続くか分からないが、本来水はあったほうが良い。ただ、エルニーニョ現象がそろそろ収束することで元の暑さに戻るのではないとも言われている。そのため、設備投資をするべきか否か悩ましい。

◆畑にも水はあったほうが良いということで、やりたい人がやれるようなシステムが作れないかと考えている。

◆畑地かんがいにはなかなか難しい。他県で畑地かんがいをやっている例をみると、一人当たりの負担金額が上がって大変という話も聞く。そのような意味では、高温に強い品種を植えるなり、色々な研究結果を参考にして、対策をしていった方が良いのではないと思う。

◆人・農地プランは令和7年3月で終了し、それ以降は地域計画に

	<p>移行するとの話があった。平成２８年から東海村農業振興計画が１０年間の計画で策定されているが地域計画と農業振興計画の兼ね合いはどうなっているか。</p> <p>◇東海村には平成２８年に策定した「東海村農業振興計画」がある。この計画は農地の使い方や農地の確保をどうするかということに加え、農産物の消費の面など、農業全体の目標を掲げた計画になる。体系としては、東海村の農業を取り巻く大きな目標として、この農業振興計画があり、その他に農地をどのように守っていくかを掲げた「東海農業振興地域整備計画」、担い手の目標をどのように設定し、担い手をどのように育てていくかを掲げた「東海村農業経営基盤強化の促進に関する基本構想」があり、その農地と人をどのように繋いでいくかの「人・農地プラン」がある。これはすべて東海村農業振興計画という大きな計画に繋がっていると考えている。地域計画は令和７年３月までに作っていくが、今後は人・農地プランが地域計画に変わっていく令和８年度から新しい農業振興計画を進めていきたい。</p> <p>◆新たな農業振興計画を作っていくのか。</p> <p>◇スケジュール的に令和８年度から新しく計画を作ることになる。東海村でどのような農業をやっていくかを打ち出していきたいと思う。</p> <p>◆東海村農業振興計画は法で必置となっているのか。</p> <p>◇この計画は法で必置ではない。東海村が独自に掲げている計画である。東海農業振興地域整備計画、東海村農業経営基盤強化の促進に関する基本構想、地域計画については法律に基づいたものになる。</p> <p>◆包括するような計画あったほうが良いが市町村独自に中身は決めているということだと思う。</p> <p>◆地域計画ができあがるまでは人・農地プランをもとに進め、地域計画が策定した段階で移行し、その後振興計画ができるという考え方で良いか。</p> <p>◇そのようなイメージで進めたい。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>
--	--